

生涯学習

No.579

かおり高い
文化のまち

戦争は絶対やっちゃ駄目だ

人間の心も生活もめちゃくちやにしてしまおう
あげくの果てに命までも



増澤 三平 97歳（東山田）
ますざわ さんぺい

生涯学習8月号は毎年「平和」をテーマに記事を載せています。

編集委員の一人が、以前、増澤さんの戦時中の体験をお聴きする機会があり、戦争当時のことを知っている方が少なくなっているなか、増澤さんに寄稿していただけたらということをお願いしました。

この文章は、ご本人の直筆と編集委員の聞き取りによるものです。

「教育勅語」の刷り込み

大日本帝国は神の国、現人神の統べ賜う神の国である。全ての臣

民は、その命令に従わなくてはならない。時には命をと。やることなすこと全て天皇のため。おまえたちはいつも拳拳服膺しろと。（拳拳服膺とは教育勅語の中にある言葉。「両手で捧げ持つ・胸につける」の意味で、陛下のお言葉を常に心に抱き、決して忘れないでいるようにということ）

当時、義務教育は尋常小学校の六年までだった。希望すると、もう二年高等科へいけた。

私は大正15年（昭和元年）の生まれだから、生まれてから二十年

間、満州事変・上海事変・日中戦争・ノモンハン事件・第二次世界大戦と、立て続けの戦争の中で育った。

国は、ラジオや新聞で「勝った」「勝った」としか言わない。負けて逃げれば、「転進した」とごまかす。嘘八百ばかりだ。

無線電信講習所

昭和19年の春。なぜか航空の文字が気になるし、それに授業料不要、逆に毎月ながしのかの手当てが出るもあり、これはよいぞと、さっそく当時目黒にあった無線電信講習所の「航空通信科」を受験したら、合格したので入学した。

目黒駅近くの無線電信通信士を養成する学校、無線電信講習所でモールス信号を覚えた。

昭和16年12月8日、日本海軍空母「赤城」が米海軍のパールハーバー基地を奇襲した。



昭和19年頃の三平さん 後列左から2人目

その結果、多数の米軍艦を撃沈し、多大な戦果をあげた。その事を軍本部へ発信した無線電信の暗号文が、よく知られているト（：ー）ラ（：ー）、トラ、トラである。本来「発信」とは、ある内容を無線電信によつて必死に伝えるということであつて、たわいもないことをたわいもない方法で伝えるこ

発行 下諏訪町教育委員会
編集 生涯学習編集委員会

〒393-8501
長野県諏訪郡下諏訪町4611-40
（下諏訪総合文化センター内）
☎ 0266-27-1111（内線718）
FAX 0266-28-0131
メール syougai@town.shimosuwa.lg.jp

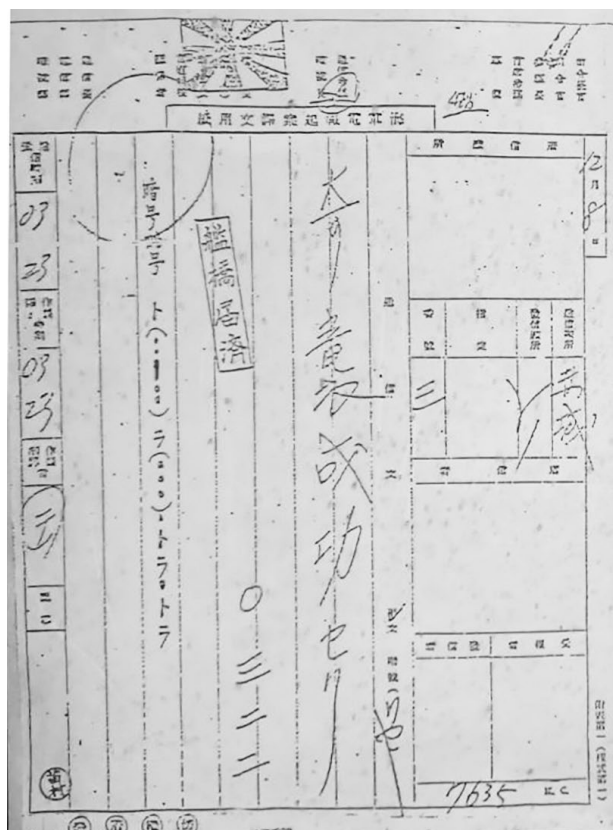
とではない。

かつて、電鍵を必死になってたたいた何百、何千の無線通信士の一人として、「発信」という言葉をあまり粗末に使ってもらいたくないと切に思う。

ここは、航空科のほかに地上科、船舶科があつて、「船舶」が一番古くて誇りがあるせいか、やたら威張り散らして、私たち航空科にも手旗信号を押し付けてきた。少しでも気を抜くと、船のオールでケツ（お尻）をバーンとひっぱたかれた。

昭和20年になると、東京の空襲は一段と激しくなり、アメリカの爆撃機B29が来るようになった。特攻隊の出撃もあるようになった。通信士の数と技量に行き詰ったのか、軍は我々民間の通信士にも目を付け始めた。

ある日突然、「徴兵は免除するから、陸軍か海軍か決めろ」と言われた。私が陸軍にしたら、すぐさま階級の無い予備役兵にされていた。しばらくしたら、なんと、米の配給が二合だったのが四合に増え



だいぶ前に上諏訪の知人からもらった「奇襲成功セリ」と書かれた奇襲攻撃の電報コピー

ていて、下宿のおばさんに喜ばれた。

こんなことを言うと、まさかと思われるかもしれないが、なんと当時は、有線電話はあつたが、まだ無線電話はなかった。

だから、電線を引けない所や船舶、航空機の場合、モールス信号を飛ばすしか手が無い。そのため、あちこちで無線通信士が必要になるわけで、軍にしてみれば一人でも多く、優れた人材を手に入れようと必死だったと思う。

特攻隊は、編隊長機の後部座席

に通信士を一人乗せて、部下の全機が突っ込んだのを確かめてから、最後に隊長機が自爆（当時は「自爆」と言っていた）する時に、通信士が「ワレジバクス」と、基地に通信していた。

東京大空襲

昭和20年3月10日の空襲は特にひどかった。私は、当時、恵比寿駅から東に1キロほどの広尾に下宿していた。

西の方から飛んでくるB29の大群はまず、本所深川の方から爆撃

したようで、東の空は真っ赤な炎が上がっていた。熱い東風がすごい勢いで吹いてきた。びしょぬれの衣服がすぐからからに乾いてしまうので、また水を被るの繰り返し。

そんな私の頭の上何百メートルか上空をB29何十機かが西から東へ向かっていく。機体の下部が大きく開いて、爆弾の落ちてくるのがはつきり見えた。爆弾が落ちてくる時、「ザーツ」と、砂利の大雨が降ってくるような大きな音を立てる。こちらから見て、西方向何度くらいか、頭の真上か、通り過ぎてからかで、着地点の見当がつきそうなので、ヒヤヒヤしながら西の空を見上げていた。

なぜか私の所には来なかったが、友人は何回も焼け出されて、死体の浮かんた隅田川を泳いで逃げたそう。焼け出されなかった私は、なぜか後ろめたいというか、申し訳ないような気持ちだった。

東京に落とされたのは油脂（ゆし）焼夷弾で、着地した衝撃で燃え上がるだけで、破裂はしなかった。中には着地はしたが、燃えないで筒だけ

が地面に突き刺さっていたのが数多くあり、それを拾って燃料にする人がずいぶんいたようだ。

7月になって、学校が東京から群馬県の田舎町に移転（疎開）した。

疎開地で

我々生徒は、小学校の空き教室を何か所か借りて、分散して寝泊まりや学習をした。

その頃には、一日一人当たりおちよこ三杯ぐらいの米とわずかな岩塩。近場から採ってきた草をたっぷり入れた、なんとも怪しげな汁を飲んだ。これでは腹が減ってしまうしうもないから、エビスビールの工場から出ていた「エビオス錠」を入手したが、あれは美味かった。

夏の朝、藁草履で体操するのだけど、蚊とかブヨに足をくわれ、薬も無いからぐちぐちよだった。風呂にも入れず衛生状態は悪かった。

終戦の日

8月に入っても相変わらず情報が入らず、原爆のことも何も耳に入らぬまま、終戦の日の陛下のラ

ジオ放送を聞くことになった。

我々生徒数人が近くの農家を訪ねた。ピーピーガーガーの中から、やっと、どうも日本は負けたらしいということがわかった。その途端、我々生徒は、わっと泣き出してしまった。

戦争が終わって嬉しいではなくて、生まれてから今までの二十二年間は、一体何だったのか。国のため、天皇陛下のためと言われ続けてきた二十二年間をどうやって取り戻したらよいのか！と。

終戦後、私も周りの学生も荷物をまとめて、それぞれの家に戻った。その後、しばらくして学校から、「戻る気持ちがあるなら、再開するので来てほしい」と手紙が来て、一度は戻った。

けれども、町に並木路子の「リングの唄」が流れているのを聴くと、電鍵をたたいて必死になっていた頃とあまりに違うので、電信への興味は薄れてしまい、卒業まではなかった。

東京は食べ物も無く、都会暮らしはうるさくて性に合わず、下諏

訪に戻った。

この頃思ふこと

あの当時は当たり前だったが、二十二年戦争続きは異常だ。みんな、おかしくなっちゃった。おかしいと思った人はいたはずだけど、「今の日本はおかしいぞ」と言えなんだ。



戦時中、目立たないように黒塗りした壁

今は、体の動きが鈍くなっているが、畑に出て作物をとって、土のにおいに触れる喜びをつくづく感じている。



平成2年（1990年）霧ヶ峰でグライダーに乗る

町民総合文化祭 参加団体募集

※新型コロナウイルス感染症の拡大状況により内容の変更や開催中止となる場合があります

参加申込用紙は文化センター内公民館窓口、または、町ホームページからもダウンロードできます。

【問合せ・申込先】下諏訪町公民館 ☎28-0002 FAX 28-0131 メール koumink@town.shimosuwa.lg.jp

	開催日	申込締切	対象者
作品展	9月30日(金)～10月2日(日)	8月26日(金)	町民および町内の各種団体・学校 ※作品展は個人も対象となりますので、ご相談ください。
芸能祭	10月 2日(日)		
音楽祭	10月23日(日)	9月 2日(金)	

令和3年度 下諏訪みらい塾 「みんなで考えるまちづくり」報告2

クローズアップしמושわ7月号で第1回から3回までを報告しました。今回は第4回から6回までの様子を報告します。

第4回 2月27日(日)

まちづくり

～これまでもこれから～(オンライン)

日本体育大学教授で日本公民館学会会長の上田幸夫さんは、「まちづくり～これまでもこれから～」と題し、まちづくりのポイント5つあげて話をされました。



講演後のやりとりでは、

みらい塾で合宿(いずみ湖キャンプ場で)やまち歩き、施設訪問はできないか。大学生やひとり暮らしの人、下諏訪から成人になった人にこの地元のよさ、帰ってみてどんなことを感じたのか、聞いてみるのもおもしろい。高齢者がかかわれるまちづくりは何か。下諏訪町にあるいくつかある公民館に図書館があるのか。地域通貨みたいなものがあるとおもしろい。

などの意見が出されました。

上田さんは、「おそらく60年前ぐらいの日本の小さな身近な生活空間のなかにはそういう動きが活発にあった。身近なところに活動をどう起こしていくことができるのか、次回にまた話をしよう。」と締めくくられました。

その後、上田さんは、下諏訪の集会所を実際に見て回りたいと「ブラしמוש」を立ち上げ、参加者といっしょに、町内公民館・分館や集会所などを見て回るまち歩きをしました。

第5回 3月6日(日) 未来の下諏訪町(しあわせ)の話をしよう

上田さんは、実際に巡った公民館・分館や集会所などの様子から、まちづくりについて提案されました。

講演前に町内公民館・分館や集会所を巡ったが、全国を歩いた経験からみてもきれいに整備され行き届いていた。

しかし、役員は男性ばかりで「従来型からの脱皮」からは外れている印象を受けた。

観光とまちづくりについては、1970年前後の観光ブームのような開発によって観光を進めるのではなく、持続可能な社会のあり方を追究するプログラムがイメージできるとよい。

例えば、出身地の兵庫県但馬で、平田オリザさんの芸術活動をきっかけに芸術文化や観光を学べる大学が新設されたが、自慢できるような動きや取り組みがあると、新しい町のイメージや振興ができるのではないか。

その後の全体の話し合いでは、

町内会に入らないと広報紙が配布されない。街灯が切れてもそのままになっているが、街灯の電気代や保守管理は町内会でやっている。町内会に入ること

で町に溶け込むことができた。分館はコロナ禍で行事やサークルも減っているが、義務でなく目的のある活動をつくってもよい。

宴席は男性、台所が女性というジェンダー差があるが、もう少し緩やかにならないか。自分も楽しめて人の役に立ち、ふつと体が動くことが大事。

公民館でITリテラシーを活用して町で暮らしていく簡単なツールを子どもと大人も学ぶ関係や仕組みができればよい。

横のつながりがあると地域に出ていかれるが、つながりがない人にもいろいろな活動が求められている。それが見えていないと思うので、見える化する

ことが大切。
など、多くの意見が出されました。

第6回 3月27日(日)

Youは何しに下諏訪へ?

横浜生まれの私が

下諏訪を選んだ理由

うみ

UMI COFFEE & LA
UNDRY (東鷹野町) を経営する滝口昂太さん。

当初は東京か横浜での開業を考えていたのですが、友人の移住を機に訪れていた下諏訪町に興味を持ち、移住。

移住後も諏訪大社を中心に地域行事が催されている様子に、生まれ育ったかつての横浜と似た懐かしさに魅力を感じたそうですが、同時に課題も見えてきたと言います。

観光を「町の発展のために外の光を観る」という意味で捉え、町民(内)と観光客(外)の幸せをできる限りつなげて考え、最大公約数を導き出すことが大切であると話されました。

その後、どうすれば下諏訪町で幸せになれるか、楽しめるかを考えようと「みんなで空想地図」のワークショップをしました。



など、アイデアがいくつも出されました。

動線を意識したまちづくり、諏訪大社参道の復活、金刺盛澄資料館、シェア工房、道の駅、オンデマンドタクシー、ショッピンセンター、お一人OKのちよつといい宿、駅に図書室・机、ロープウェイ、サイクルポート、町中キャンプ場、野性的ツーリングロード、砥川探検ゾーン、カプセルホテル、秋宮メタバース、コワーキングスペース・シェアアトススペース、岩盤浴、きれいな水を楽しめる公園、まち歩きガイドツアー、観光客がレガッタを体験、湯の家、ジビエのお店

6月26日に開講した町民大学「小さな隣人 諏訪の昆虫たち」をYouTubeで配信しています



私たちに身近な昆虫の世界を
のぞ
覗いてみませんか

自然写真家
青木由親先生



※YouTubeは二次元コードからご覧いただけます

令和4年度下諏訪みらい塾の参加者も随時募集しています。詳細は、公民館へお問い合わせください。
(TEL 0266-28-0002)

教育委員会からのお知らせ

下諏訪町教育委員会、下諏訪町地域包括医療推進協議会 主催

第23回 下諏訪ギネスに挑戦！

& 推定歩行年齢がわかる！歩行姿勢測定

しもすわ健康づくり
応援ポイント10ポイント
もらえます



下諏訪ギネスに挑戦！

未就学児の部～70歳以上の部に分け、全6種目の歴
代記録の更新を目指します！
記録を更新された方には、「ギネス認定証」が贈られます。



参加費無料
事前申込不要

推定歩行年齢がわかる！ 歩行姿勢測定

やまびこスケートの森スタッフが
あなたの歩きを測定し、「速度年
齢」「姿勢年齢」「バランス年齢」
から推定歩行年齢を分析しま
す！(成人の方に限ります)

- 会 場 下諏訪体育館アリーナ (当日受付)
- 日 時 8月28日(日) 午後2時～4時 (受付/午後1時30分～2時30分)
- 対 象 下諏訪町在住・在勤・在学の方 (小学生未満は大人の付き添いが必要です)
- 持ち物 運動のできる服装、上履き、タオル、飲み物
- お問い合わせ先：下諏訪体育館 TEL.0266-27-1455

参加される方は、マスクの着用など感染予防にご協力をお願いします。
新型コロナウイルス感染症の地域の感染拡大の状況により、行事内容の変更および中止とする場合
があります。

公民館特別事業 「平和展・戦争と下諏訪」

期 日：8月15日(月)～8月26日(金)
会 場：下諏訪総合文化センター 1階展示コーナー
内 容：パネル展示

町民大学③



演 題 和田嶺合戦と諏訪の意地

講 師：小口 徹 先生
(宿場街道博物館・諏訪湖博物館専門研究員)

日 時：8月28日(日) 午後1時30分～3時00分

会 場：文化センター小ホール (受講料無料)

※当日参加可

※新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、
参加方法を変更する場合があります。

和田嶺合戦は、1864年11月20日午後、攘夷の実行を訴え京都を目指す水戸浪士らを、諏訪藩・松
本藩が樋橋で迎え撃った戦いです。水戸浪士らは約1,000人の武装集団。実戦経験が豊富で、最新式
銃や大砲を多数もっており、小藩が勝てる相手ではなかったのです。でも、あえて諏訪藩は戦いに挑み
ました。

戦いの様子と背景を紹介します。

■ お問い合わせ 下諏訪町公民館 ☎28-0002